

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	35	学校名	関高等学校
------	----	-----	-------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	自己実現と社会貢献ができるひとの育成に取り組む高校として 校訓「進取・至誠・練磨」のもと、探究的な学びを推進した教育活動を通して グローバル・リーダーの育成を目指す学校
------------------------	--

学校教育目標 (教育方針)	豊かな人間性を備え、課題発見・課題解決力を活かして、自己実現と社会貢献ができるひとを育成する。
------------------	---

3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> ・高校時代に確かな学力を身につけ、自分の将来を設計できる生徒（日々錬磨） ・課題解決力やコミュニケーション力を身につけ、どんな困難にも立ち向かえる生徒（進取の気概） ・豊かな人間性を身につけ、人の立場を理解し、思いやりある行動がとれる生徒（至誠の心） ・グローバル社会にふさわしい素養を身につけ、多文化共生をめざすことができる生徒（グローバルな視野）
	生徒をどう育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成や授業改善により「思考力」「判断力」「表現力」「コミュニケーション力」を伸ばし、多様化する大学入試制度等に対応した進路指導を実現（Study hard!） ・生徒会活動・部活動及び学校行事への主体的参加を促し、集団における個の役割を自覚させるとともに、個を活かす集団づくりを支援（Work hard!） ・学校生活の中で、互いを尊重できる人間関係の構築と、感謝の気持ちを大切にした行動の具現化を図り、生徒の心身の健康保持のため、家庭との連携を強化（Be polite!） ・総合的な探究の時間に取り組むSDGsの実現に向けた課題解決型研究を通して、グローバルな視野をもち、多分野で活躍できるひとを育成（Be global!）
	どんな生徒を待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> ・高校時代に基礎学力を向上させ、卒業後は大学等に進み、より深く学びたいと考えている生徒 ・自ら課題を発見し、その課題を解決しようという意欲にあふれた生徒 ・学ぶこと・知ることの楽しさを見つけたいと強く願う生徒

学校の抱える課題	<p>【教務部】 生徒の可能性を最大化させるような積極的な指導が不足している。スタッフが変わっても、探究活動を継続させているような環境整備に不安がある。協働的な学び、ICT活用などを行っているが、その実態や成果が保護者、地域に伝わっていない。</p> <p>【生徒指導部】 様々な事案対応がある中で、家庭との連携はもちろんのこと警察や外部機関との連携をより一層図っていくことが重要である。</p> <p>【教育相談部】 生徒間の良好な人間関係構築・コミュニケーション不足に対する支援。増加する進路実現・学業不振に係る不安・悩みへの寄り添い、家庭との連携・家庭への情報発信、校内教育支援センター（ほっとプレイス）の整備。</p> <p>【進路指導部】 進路指導室の生徒の利用しやすさという点で改善が必要である。本校中位層の生徒の学力向上のための方策をさらに工夫する必要がある。学習、入試のデジタル化が進む中での本校進路指導部としての対応方法を進化させる必要がある。</p> <p>【特別活動部】 感染症や熱中症対策をしながら、どのような活動を行っていくことができるかを見極める。勉強と部活動の両立を図りながら、充実した活動を行う</p> <p>【保健厚生部】 学校評価アンケートの「施設・設備は、学習の面でほぼ満足できる」という項目の評価が、昨年よりも低くなっている。老朽化しているも清潔な校内を保つことができよう、生徒会や委員会の生徒の意見を集めて更に検討したい。</p>
----------	--

今年度の具体的な重点目標	
進路指導	確かな学力とともに、勤労観や職業観を涵養し、自分の将来を設計できる能力を育成する（勉強する関高生“Study hard!”）
生徒指導	生徒一人ひとりのコミュニケーション能力や課題解決能力を育成する（マナーの良い関高生“Be polite!”）
特別活動	集団の中で互いに尊重できる豊かな人間性と個の役割を自覚し主体的に実行できる力を育成する（汗を流す関高生“Work hard!”）
その他	国際的な素養を身に付け、多様な価値観を認めあえる人材を育成する（グローバルな関高生“Be global!”）

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果(○)と課題(▲)	総合評価 A. B. C. D
進路指導	①生徒、教員にとって入りやすく利用しやすい進路指導室を目指します。生徒・教員ともに進路意識を向上させる支援を行います。	施策IV-20	① 校内生徒アンケートの該当箇所に関する肯定的評価80%以上。 ② 校内生徒アンケートの該当箇所に関する肯定的評価80%以上。 ③ 校内生徒アンケートの該当箇所に関する肯定的評価80%以上。	【教務部】 ○教務部・学年部で科目、コース選択の支援を行った。 ○学習支援デジタルコンテンツの有効活用の方法を学年部と検討してきた。 ○授業研究、評価を実施し、授業改善を進めた。 【進路指導部】 ○①②③について、アンケートの肯定的評価おおむね90%以上であった。 【1年次会】 ベネッセ総合学力テスト（記述）総合結果 7月 偏差値55以上 103名 65以上 24名 11月 55以上 124名 65以上 31名 【2年次会】 ○昨年度に続き、12月三者懇談時に保護者および担任の前でプレゼンテーションをおこなう企画を計画し、立案および実行した。生徒は曖昧だった第1志望についてより明確となり、保護者からも好意的な評価を頂いた。 ○11月進研模試において、偏差値65以上が38名、55以上が145名。 【3年次会】 ○進路相談について、担任だけでなく、進路指導室に相談に行く姿が多く見られた。 ○全統共テプレ偏差値65以上7名、55以上66名	A	【教務部】 ○生徒の進路希望と実態に応じた支援を行うことができた。 ○全学年で導入しているデジタルコンテンツの有効利用の促進が徐々にではあるが進んできた。 ○全職員が授業アンケートを実施し、生徒の意見や要望を参考に授業改善を行った。また、職員間で授業を見学し互いに参考とした。 ▲日常的に活用している生徒数はまだ少ない。 【進路指導部】 ○3年次生については、進路指導室周辺の環境を有効活用できている。 ○保護者面談の時間に進路指導主事が面談を行うなど、生徒との面談を重視した進路指導を展開できている。 ○模試業務の効率化や、進路指導室周辺の整理など積極的に行った。 ○推薦入試業務の分担も昨年度より進んだ。 ▲私大推薦も含め、総合型選抜や推薦入試への出願数が多くなり、担任によっては負担が増えた。 ▲面接小論文、進路指導に関する職員研修にさらに重点を置く必要がある。 【1年次会】 ○成績上位層の生徒が増加した。 【2年次会】 ○生徒個人の進路意識を高めることができた。 ▲各教科、小（単元）テストや土曜模試対策講座などを実施しているが、学力中下位層に対する学習への更なる意識づけや基礎学力補填が課題である。 【3年次会】 ○自分の将来設計に向け、積極的に情報収集することができた。	
	②キャリアプランニング能力を高めるために進路行事を幅広く実施し、生徒が自己実現できる力を養成します。また、特色ある教育課程のもと、生徒の多様な進路希望実現のための学力向上を図ります。	施策II-13					
	③大学入試の多様化や新学習指導要領に対応した、思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力を伸ばすための授業改善に努め、主体的に学習に取り組む姿勢を養います。	施策II-11					
生徒指導	①教職員の声かけと生徒会活動が一体となることで、「時間」「約束」を守り、「挨拶」「感謝」を大切にした行動の具現化を図ります。	施策I-1	① 遅刻数、欠席数、携帯使用マナー違反の減少傾向を維持。 ② 保健室、教育相談だよりを生徒や保護者あてに月1回程度発行。いじめアンケート・いじめ防止等対策検討会議を年3回実施。心のアンケートを年4回実施。 ③ PTA役員会、保護者懇談会、地域の声によって評価。	【生徒指導部】 ○生徒が主体的に判断・行動し積極的に自己を生かして行動できるよう、日常的な教職員の声かけによる生徒理解に努める指導を行うことができた。MSリーダーズや風紀委員による交通安全啓発活動やヘルメット着用推進活動を行った。今年の特徴として、全校の欠席・遅刻数が昨年度と比較して大幅に減少した。 ○いじめアンケートを3回、いじめ防止等対策検討会議を4回、教育相談会議を週一回実施した。情報収集を迅速に行うことができた。 【教育相談部】 ○「心のアンケート」を学年間4回実施し、生徒	A	【生徒指導部】 ○身だしなみに関しては学校評価アンケートでも高校生としてふさわしいものであると、高い評価を得た。 ○様々な活動から学びを推進し豊かな人間性を育み、自己肯定感を高める支援ができた。MSリーダーズや風紀委員が市や警察、地区交通安全協会と連携して啓発活動を行った。 ○学校全体で欠席・遅刻が昨年度より減少した。 ▲今後も、学習や進路、対人関係や家庭環境など多岐にわたる理由による欠席や遅刻が想定され、一人一人に寄り添った指導や教育相談的な支援、家庭との連携をより一層図っていく必要がある。 【教育相談部】 ○生徒の不安や教職員間の連携、進路指導	
	②安全・安心な学校生活を送るために、生徒の心身の健康を支援する環境づくりと家庭との密な連携をします。	施策III-19					
	③学校の教職員、生徒、保護者、地域の方々の連携を深め、教育活動を展開します。また、ホームページ、広報誌、回覧板等を活用して、地域に情報を発信します。	施策I-7					

				○「心のアンケート」を年間4回実施し、生徒個々の実態把握・理解に努めた。不安や悩みを抱える生徒・保護者に対してはスクールカウンセラーやスクール相談員にも繋げた。「ほっとプレイス」の拡充を図り、学校全体で組織的に対応した。保健室、教育相談日より（教室掲示用）を月1回程度発行した。	○生徒との面談や教職員同士の連携・情報共有を密にし早期発見・早期対応ならびに組織での対応に努め家庭や外部機関との連携を深めて事業対応を行うことができた。 ○生徒の心の自立と共生への支援 ・早期発見・早期対応するための組織的対応 ・職員間の情報共有と共通理解 ・SC、S相 等への繋ぎ ○生徒への情報発信 ▲家庭(保護者)への情報発信・情報共有	A
特別活動	①生徒が生徒会活動やFRHに関わる活動を経験し、様々な行事を主体的に運営できるよう、支援をします。	施策I-1	①校内生徒アンケート「協力して取組む」や「お互い認め合う」といった項目の肯定的評価80%以上。 ②部活動の登録率85%以上。 ③地域と連携した活動に関わる生徒の比率20%程度。	【研究推進部】 ○各種の調査研究を推進し、学校内外においてその成果を発表した。 【特別活動部】 ○関高祭などで生徒が主体となり行事が実施された。 ○学校アンケート項目の「生徒会活動・部活動及び学校行事を通い主体的に参加を促すなど文武両道を実践している。」には肯定的意見が88.7%、「学校行事や部活動を通して、生徒が充実した学校生活を送れるよう取り組んでいる。」には肯定的意見が94%であった。 ○体育系・文科系の部活とも、全国大会出場などの実績を残すことができた。 ○1年生の部活動加入率は約86% 【3年次会】 ○文化祭や体育祭への積極的参加	【研究推進部】 ○調査研究に対する姿勢や発表の技術などが向上している。 ▲個々の生徒により、研究対象及びその関係者に対する姿勢や意識の差がある。 【特別活動部】 ○アンケートで「関高祭が充実していた」と答えた生徒の割合が99%であった。仲間と協力し、主体的に行事に参加できている結果だと考えられる。 ○体育館の冷房設備は期待するほどではなかったが、熱中症対策などを考慮し環境整備を行った。今後も続けていきたい。 ▲部活動では、一部施設で施設の老朽化が見られ、予算の範囲内ではなるができるだけ整備していくように心がけたい。 ▲文化祭などの活動においても、物価の上昇率を考慮した予算の設定ができるとよいが、限られた予算内での限界もある。 【3年次会】 ○学校行事に主体的に参加し、個々の役割を自覚して、リーダーシップやそれぞれの力を発揮することができた。 ○クラス発表や応援発表に取り組む中で互いを尊重して良い人間関係の構築ができた。	A
	②部活動への積極的な参加を促し、集団における個の役割を自覚させると同時に、個を活かす集団のあり方を学び、協調性と個性を尊重する態度を養います。	施策IV-25				
	③FRH活動や異校種間交流の機会を通じて、地元の様々な催しに参画し、積極的に校外で関高生が活躍する機会をつくります。	施策I-4				
その他	①1年次で地域の活性化に取り組み、2年次でSDGsを扱う課題解決型研究において、生徒の視野を大きく広げる支援をします。	施策II-8	①各学年のHR・学年発表会の実施。全校発表会では2年次生はAll Englishで発表。 ②語学の力を活かす活動の参加者の増加。 ③各講演会・交流会のオンライン参加を含めた外部参加者100名。	【渉外部】 ○PTA総会・関高PTフォーラムを同日に開催した。 ○文化祭PTAバザーでは「私のココ推せる！」と題し、自己肯定を促す活動をおこなった。保護者と生徒のコミュニケーションを図る機会となり、保護者の学校理解につながった。 ○PTA入会にあたり、個人情報や入退会の手続きについて会則の改定案を作成し準備を進めた。 【1年次会】 ○地域の問題について、個人で課題を設定し、自らの提案や課題解決方法を模索し、レポートにまとめる活動をした。 ○夏季休業に関ジモト大学に参加し、企業の実践活動を学んだ。 ○10/7、14、21に各HRで経過報告会、11/18にクラス予選会、12/9に学年選考会を実施。 ○現在、代表者は3/16の探究成果発表会に向けてプレゼンテーション準備、他の生徒はポスター作成に取り組んでいる。	【保健厚生部】 ○防災に関するLHR 各クラスの厚生委員が通学路や関高生が行きそうな建物、関高校内、関高校周辺についてタブレットで写真を撮影したものを資料にグループごとに話し合いを行なった。活発な意見交換により、防災意識の向上をはかることができた。 【渉外部】 ○PTAフォーラムをPTA総会と同日開催し、参加しやすい形態となった。 ○保護者の学校に対する意見や要望を吸い上げるとともに保護者と学校、生徒が直接かわる活動を充実させることができた。 ○PTA会則の改定について準備が整った。 ▲講演内容について、低学年の保護者の興味関心を引くものにする工夫が必要である。 ▲学校祭などの地域への広報活動が少ない。 【1年次会】 ○身近な問題について、考察を進めることができた。 ○お互いの研究した内容から、視野を広げることができた。 ▲研究内容が浅い生徒もいたため、視点を深められる指導が必要。	A
	②語学の4技能を高め、グローバルに活躍できる人材を育成し、さらにその力を活かす機会として国内外の研修や地域の催しへの参加を促します。	施策II-11				
	③地域の方々、卒業生、保護者等、多様な人材を活かした講演会や交流会を実施します。また広報活動を活性化させ、講演会・交流会を地域の方々に開放します。	施策I-4				

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和8年1月14日

<p>【学校】 スクールポリシーのCPにおける第3項目及び教育指導の重点の生徒指導分野について、“Be polite!”を“Be sincere!”、“マナーの良い関高生”を「誠実な関高生」に変更する。</p> <p>【教務部】 生徒や学校の実態に応じた教育課程の見直しを行う。</p> <p>【生徒指導部】 ○生徒自らが主体的に行動し自己肯定感や達成感を高められるよう、地域や社会と積極的に関わり心豊かな人間性を育むマナー指導やモラル指導を推進する。 ○生徒が抱える問題や悩みは多岐にわたり、また社会等生徒を取り巻く環境の変化も著しい中で、家庭や地域、警察や外部機関との連携がより必要である。</p> <p>【教育相談部】 ○問題に結びつく「芽」の早期発見・早期対応への組織的アプローチ ・職員間の情報共有・共通理解→学年主任・HRT・分掌との連携の下、迅速な対応に迎える体制づくり ・スクールカウンセラー、スクール相談員の効果的活用 ・教育相談週間（年2回）の効果的設定 ・職員研修会の実施→教員の資質向上・スキルアップ ・外部機関との連携 ○家庭との連携（保護者への情報発信）</p> <p>【進路指導部】 面接小論文、進路指導に関する職員研修の実施。生徒面談の一層の重点化。さくら塾の拡充。 【研究推進部】 総合的な探究の時間の活動内容をさらに充実したものにするために、現状の分析と改善を、さらに進める。 【特別活動部】 行事や諸活動の環境を再度見直し、より充実させるための内容や施設の整備を進めるとともに、生徒の主体性を高める工夫をする。 【保健厚生部】 掃除点検を10月に1度行なったが、1月にも2回を行ない、日常の掃除の重要性を認識する機会を持てるようにしたい。 【図書部】 DX関連図書の充実による、生徒の活動の支援。 【渉外部】 PTA入会について、その案内を新入生保護者に誤解なく伝え、入会率100%を目指す。 【1年次会】 学習及び日々の生活の充実に向けて、生徒の意識を向上させる取り組みを積極的に進めていく。 【2年次会】 3年次に向けて良いスタートが切れるよう用意周到に準備を重ね学習等に取り組ませると同時に、特に取り組みが遅れている生徒に対しては、授業等を通じて早期に支援していく。</p>

学校関係者評価

実施日：令和8年1月29日

<p>○ 勉強だけではなく、部活動や関高祭など、自主性と高い能力を持つ生徒が多いエネルギーのある学校である。生徒の活動を金銭面で支えているPTAとしても、3月の合格者説明会においては新入生保護者の皆様100%入会の一助となりたい。教育の質を落とすことのないよう、本日提案された改善案について、前向きに取り組んでほしい。</p> <p>○ 関高の先生方はがんばっている。運営協議会の我々と先生方がワンチームとなり、将来、生徒がよりよい社会人となり、生涯にわたって元気に楽しく過ごせる人間になってほしい。関高校に対する関心を高めるために、例えば『関高ツアー』等学術系ユース番組を参考に作ってみても面白いのではないかと。また、学校の中では生徒はどうしても受け身になりがちだが、社会ではよくない環境も自分で変えられる力が必要。個性を生かして環境を崩せる人材が環境を居心地よく楽しいものにできる。その意味で、本校の研究推進部は模索しながら生徒と一緒にやっていることがよく分かる。</p> <p>○ 先生方はよく努力・工夫しており、生徒も成果を出している。関高校としてのPRや発信についてさらに力を入れ、中学生が体験入学の中で興味深く感じたことや、関高の良さをとりまとめて広くアナウンスしてほしい。</p> <p>○ 学校としても職員としても、取り組みがしっかりとなされ、学校が抱えている課題についてももしっかりと把握され適切に検討されている。よい意味で何も言うことはない。ただし、一般的に学校は事案が発覚するまでは指導が行き届いていると思いがちであることは留意しておきたい。現在、社会では中高生のオールドブーズや、暴力的な動画の撮影・拡散について高校生の中で「おもしろい」という感覚があることが問題になっている点も踏まえて、リテラシー教育を今後も意識的に行っていただきたい。</p>
--